

# 女性が生み出す 草の根イノベーション

市民委員会  
提言書及び報告書

平成 26 年度

都留の活性化を考える女性の会



# 市長への提言書

- 都留のまちづくりのために
- 都留の資産を活用するために
- 都留の情報発信のために

平成 26 年度

都留の活性化を考える女性の会

## ◇市長への提言書

---

### ●都留のまちづくりのために

#### 人材の活用

##### 【女性の力】

- ・いま、地域を成長させるためには、女性の力が重要だといわれています。
- ・農産物直売所の経営に女性ならではの視点を持ち込むことは、新たな付加価値を提供することにつながります。
- ・都留で生活している女性を都留の資産と位置付け、さまざまな女性が能力を発揮できるような仕組み、女性の資質を活かし能力を引き出すような人材の活用が必要です。
- ・小さい集まりにも積極的に市長が参加し、市長が女性を応援しているという姿勢を積極的にアピールすることで、女性の力は発揮されます。

##### 【都留文大生】

- ・高齢化が全国的な問題となっている現在、都留市には約 3000 人の若い学生を抱える都留文科大学があります。
- ・都留文大生は都留の大切な資産と認知し、まちに若い人がいることの意義や、都留にとって大学生の存在がいかに大切なのかを市民に向けて積極的に伝えることが必要です。
- ・学生と一緒にできるまちづくりの活動のひとつとして、空き家対策、まちの活性化のために、上谷、つる、下谷地区の空き家を積極的に学生のシェアハウスとして貸し出すこと。そのためには自治体や市民からのサポート体制の構築が必要と考えます。

##### 【市民と職員の力】

- ・まちづくりの課題解決を進めるためには、「俯瞰的な視点」と「パートナーシップ」が不可欠です。
- ・市民からの意見は、「批判」ではなく、寄せられる現状把握に対する意見は、都留を良くするための意見と受けとる、職員の前向きな意識改革が必要となります。
- ・そのためには、専門家を交えたワークショップを所内で通年開催し、職員がチームビルディングを学び、市民とのパートナーシップを構築することが急務となります。

##### 【コンサルタント・専門家】

- ・地域を元気にしていくときに本当に必要なのは、まちづくりを「じぶんごと」として真剣に取り組む人材です。
- ・「地域の将来の行方」を、単なる業務としてこなすようなコンサルタントに任せっきりにすることでは、良い結果は見込めません。
- ・コンサルタントの人選は、地域活性化を握る重要なカギであり、安易な人選を避け、慎重に行なうことを希望します。

## ◇市長への提言書

---

### ●都留の資産を活用するために

#### 【エコハウス、城南倉庫】

・エコハウスなどで定期的にマルシェを開催することは、農産物直売所への出店の準備となり、場所的にも、三町商店街・フリンジマーケットとの連携ができ、都留市中央部の活性化につながります。

#### 【農産物直売所】

・都留に住む女性が、農産物だけでなく、みそや梅干しお菓子など、自分が得意とするものを作り、直売所で販売することで、収入も増え生きがいにつながります。

・農産物直売所の経営に女性ならではの視点を持ち込むことは、新たな付加価値を提供し、集客や売り上げにつながります。それは、単に視点が違うということではなく、地域でお金が循環している一番末端を握るのがほとんどの場合女性であり、女性はそもそも買い手側の人間であるからです。

#### 【都留の歴史、特産物など】

・まずは都留の歴史、特産物などを都留の大切な観光資源と捉え、その特徴や素晴らしさを市民が再確認し、都留市民また都留市外に向けて丁寧に説明することが大切と考えます。

・観光資源となる特産物は都留にたくさん眠っています。それを掘り起し、内外に伝えるためには個人の力だけでは限界があり、自治体が積極的にサポートし、存在をアピールしていく必要があると考えます。

### ●都留の情報発信のために

#### 【都留市民への情報発信】

・大学生と市民の相互に向けた情報発信には、SNS（Twitter,Facebook など）と、掲示板の活用が有効です。

・今回の活動の中で、市民から「市からの情報発信が少ない」という指摘が多くあったのは、発信している情報が届けたい相手に的確に届いていないことが原因と考えられます。

・さまざまな情報が飛び交う中、携帯電話やインターネットを使わない人は、「情報入手弱者」に陥っています。デジタルの発信だけでなく、手書きでの温泉便り・商店街便りなどの運用及び活用方法を模索することも、多様な情報発信につながります。

・届けたい相手に届けたい情報をきちんと届けるために、職員一人ひとりが情報発信基地となるという意識を持つことも必要です。

#### 【都留市外への情報発信】

・都留市外に向けての情報発信は「都留を選んでもらうため」のツールとなります。

・ほかの地域との差別化を図り、お客さんから選ばれて都留に人に来てもらうためには、丁寧な情報発信が不可欠です。

以上

# 提言のための考察およびまとめ

平成 26 年度

都留の活性化を考える女性の会

## ◇参考資料

---

### ◇市民委員会制度設立の背景

(都留市 HP「市民委員会制度」より抜粋)

地方分権が進む中で、「まちづくり」の主体は、国や都道府県ではなく市町村と住民が中心であり、その進め方も住民発意の提案と参加にあります。活力ある「まちづくり」の実現のためには、いかにして多くの市民の参加を得るかにかかっています。

自分達の生活する都留市を、市民自ら真剣に考え、まちづくりに参加し、一人ひとりが生きがいを持ってこのまちに住んで良かったと実感でき、住むことに誇りを持てる個性豊かなまちづくりを推進していくためには、市民参加型・市民提案型の行政施策を展開していかなければなりません。

### ◇市民委員会の目的

- ・「市民一人ひとりが主役のまちづくり」の実現
- ・市民と行政の有機的連携の強化
- ・市政への積極的な市民参加
- ・市民のまちづくりに対する意見を施策に反映

## ●人材の活用

### 【女性の力】

いま、地域を活性化させるためには、女性の力が重要だといわれています。農産物直売所の経営に女性ならではの視点を持ち込むことは、新たな付加価値を提供し集客や売り上げにつながります。それは、女性は買い手であり、地域でお金が循環している一番末端を握るのがほとんどの場合、女性だからです。

また、ダイバーシティ（障害者や高齢者などあらゆる人との多様な関係性）は、性別、国籍などの多様性を生かす人材活用法であり、「異なる視点を持つ女性の登用が企業や自治体を強くする」とビジネス分野でも、また国の成長戦略でも強く推し進められています。

北欧各国（フィンランド、デンマーク、ノルウェー）では、人口が500万人以下で北海道より少ない人口ですが、日本より男女共同参画が進んでいます。その大きな要因は、第二次大戦で働き手である男性を失ったため、女性を活用しなければ国が成り立たず、女性の活用のために、働ける環境を整え保育や福祉も発展しました。

人口減少に向かう日本にあっても、女性の力を活用しなくてはならない社会状況は既に到来しており、環境を整え、女性の力を積極的に活用することが活性化に結び付くと考えます。

都留で生活している女性を都留の資産と位置付け、さまざまな女性が能力を発揮できるような仕組み、女性の資質を活かし能力を引き出すような人材の活用が必要です。

また、市民の開催する小さい集まりにも積極的に市長が参加し、市長が女性を応援しているという姿勢を積極的にアピールすることで、女性の力は発揮されます。

### 【都留文大生】

高齢化が全国的な問題となっていますが、都留市には約3000人の若い学生を抱える都留文科大学があります。都留文大生は都留の大切な資産であると認知し、まちに若い人がいることの意義や、都留にとって大学生の存在がいかに大切なのかを市民に向けて積極的に伝えることが重要です。

学生と一緒にできるまちづくりの活動のひとつとして、空き家対策、まちの活性化のために、上谷、つる、下谷地区の空き家を積極的に学生のシェアハウスとして貸し出すこと。そのためには自治体や市民からのサポート体制の構築が必要と考えます。

そして都留から大学生がいなくなると、都留の将来はどうなるのか？などのシミュレーションやワークショップの開催することで、大学についての市民の意識改革を促すことが必要です。

市民が積極的に大学生におもてなしをし、大学生にとっていい思い出ができれば、卒業後に家族を連れてまた訪れます。日本全国から集まる学生は、卒業後、全国に散っていきます。学生一人一人が都留の観光大使となるよう大切に育て、全国に向けて都留という存在をアピールすることが、都留の活性化につながります。

## ●人材の活用

## 【市民と職員の間】

私たち女性の会の目標は、「草の根イノベーション」であり、次世代に受け継ぐための「都留のまちづくり」です。

まちづくりには、まず徹底した現状把握を行うことが必要です。現状把握を徹底することで、まちの魅力や商業力をあぶり出す方法が検討できます。したがって、市民が市役所に向けて打ち出す「現状把握」は「現状批判」ではありません。現状把握を行うプロセスで、人の意見を否定しないことは、まちづくりのための活発な議論や新たな発想のためには不可欠です。

職員も市民であり、「都留が良くなること」を共通の認識と捉え、市民と職員の対立や敵対ではなく、「パートナーシップを結ぶ」という意識改革による関係性の改善と、市民からの意見は単に「批判」ではないという認識を持つことが必要です。

また「市民一人ひとりが主役のまちづくりの実現」には、職員のサポートが不可欠です。

サポートする職員のために、まちづくりの仕事に必要なスキル、社会人としての教養、チームビルディング、ダイバーシティ（障害者や高齢者などあらゆる人との多様な関係性）を良好にするための、所内研修と勉強会を充実させていき、あらゆるハードルを乗り越え、自ら課題解決のために活躍する職員の人材づくりが非常に重要となります。

そして、市民一人ひとりが異なるバックグラウンド、感受性、価値観を持つことを理解し、人々がまちづくりのチームを形成するために、市役所の存在意義と職員の価値観、そして市民の意識を共有し、「都留のまちづくり」のために、お互いの得意とするところで行動することが大切だと考えます。

具体的には、専門家を交えたワークショップを毎年開催し、課題抽出（批判と受け止めるのではなく、正しい現状認識）を明確にし、チームビルディングを学び、職員や管理者の意識改革を促すことが必要と考えます。

また、市民にも意識改革が必要です。地域の人々が知恵を出し合いながら、まち全体を盛り上げていくためには、何もかも行政頼みではなく、市民自らが資源を発掘研磨し、おもてなしの観光づくりに取り組んでいくことが不可欠です。



## ●人材の活用

### 【コンサルタント、専門家】

まちづくりには正しい知識を持った専門家の助言は必要ですが、実行し動くのはそこに住む生活者です。

地域で事業を成功させるためには、単にコンサルタントの助言を頼りにするのではなく、生活する私たち住民が、主体的に問題解決のために知恵を出し、実行することです。

都留を知らない外からのコンサルタントを呼ぶということは、単純な予算の消化、いたずらに人材や資源を荒らすことにも繋がります。プレゼンと報告書は上手だが、実際に成果が出ないなどの失敗例も多く聞きます。「都留の将来の行方」を、単なる業務としてこなすようなコンサルタントに任せっきりにすることでは、良い結果は見込めません。

コンサルタントの人選は、地域活性化を握る重要なカギであり、安易な人選を避け、慎重に行なうことを希望します。

地域を元気にしていくときに、本当に必要な人材は、まちづくりを「じぶんごと」として真剣に取り組む人材です。

地域に今いる人、最近入ってきた人や大学生などに注目し、何ができるのかを顕在化させてみることも、人材の発掘という意味では非常に大切だと感じます。

また、都会で暮らしているながら、都留に日ごろから親しみ、心からコミット（責任をもって係わること）してくれている人との関係性を紡ぎ、力を借りることも大切だと考えます。

### 【エコハウス、城南倉庫】

- ・今ある施設を積極的に活用することは、市民活動にとって不可欠です。
- ・エコハウスなどで定期的にマルシェを開催することは、農産物直売所への出店の準備となり、活発な市民活動にもつながります。
- ・場所的に、三町商店街、フリンジマーケットとの連携ができ、都留市中央部の活性化につながります。

### 【農産物直売所】

- ・農産物だけでなく、みそや梅干しお菓子など、自分が得意とするものを作り直売所で販売することで、収入も増え、生きがいにつながるということを、まず市民に丁寧に説明し実感してもらうことが大切だと感じました。
- ・何に向けて、誰に向けての直売所なのかを、強いリーダーシップのもと、生産者、市民、職員で話し合い方向性を決めることが必要ではないか思います。
- ・市民と行政がパートナーシップを組むことが非常に重要となります。
- ・生産者が必要としていることを丁寧に聞き取り、そのサポートをすることが必要です。
- ・生産者と行政との架け橋となる組織が必要と考えます。
- ・成功している直売所の良いところを積極的に取り入れることも、一つの方法と考えます。

### 【三町商店街】

大学生と一緒に商店街の活性化を考えることが、都留独自の商店街の姿になると考えます。そして情報発信の必要性を強く感じました。

また歩いて買い物をする商店街なのに、車の往来が激しく、歩道も整備されていないという指摘がありました。

#### ●ワークショップで出た意見（抜粋）

- ・三町商店街は、学生の活動への理解がある
- ・文大通り周辺にはないようなお店がある。
- ・地域の人が温かくて、学生の活動に快く協力的
- ・大火から復興したという物語がある

- ・昭和レトロな街並み
- ・そこに住んでいる人がお店をやっている。
- ・歩ける範囲にいろいろなお店がある。
- ・定休日が日曜なので、大学生と休みがかぶってしまう。  
(平日はなかなかでてこられないので)
- ・情報があまり発信されていない
- ・宣伝不足による認知度不足
- ・せっかくいいお店があるのに、知られていない
- ・住もうと思った時のルートがない。

今回のワークショップでは、さまざまな立場の人が、三町商店街についてどう考えているのか、これからどうしていきたいのかという意見を聞くことができました。

まずは集まって、自分の想いを口にするというところから始めましたが、参加者から1度で終わらせずに続けてほしいという要望が多数ありましたので、ぜひ今後につなげていきたいと思います。

**【芭蕉月待ちの湯】**

- ・まずは芭蕉月待ちの湯を都留の大切な観光資源と捉え、その特徴やお湯の効能などを再確認し、ホームページなどで丁寧に説明することが急務です。
- ・情報を発信しその特徴を知ってもらうことが来場者を増やすことに直結します。
- ・芭蕉月待ちの湯は、市民の健康施設として、またお年寄りの引きこもり対策としても非常に有効な施設だと考えます。
- ・まずは生活者としての市民に来てもらい利用してもらうことが、持続的な施設活用の鍵となります。そのためには市内からの利用者呼び込む工夫が必要です。
  - ・市民や大学生に1回無料券を配る。その際に市民の声を積極的に聞く（アンケート等の実施）
  - ・地区ごとに決まった曜日に市内をマイクロバスがまわり、お年寄りを温泉に送迎するシステム作り。
  - ・手作りパンフレットや温泉便り、口頭などでも丁寧に説明することを心がける。
- ・また、市外や県外からの利用客のために、ブランディングを積極的に利用することが有効です。
  - ・女性の身体と月の満ち欠けは非常に密接に関係があるので、月待ちの湯を「女性のための温泉」と位置付け、そこにある物語や効能などを丁寧に掘り起し説明し、サービスに努める。
  - ・強アルカリのこの温泉は、飲用水としての魅力もあります。ペットボトルに詰め販売できれば、温泉の差別化になり、特徴ある都留の特産品にもなると考えます。
- ・群馬県利根郡片品村営の「花咲の湯」では、「おもてなし」をブランディングの大きな柱として従業員全員で実行しています。芭蕉月待ちの湯でも、参考にできる部分があると考えます。
  - ・毎朝5時から5時間をかけて徹底した清掃が行なわれています。ここから見えてくるのは、清潔感が集客の基本であることです。
  - ・また、できる限り村で生産された食材を使ったレストラン（シェフではなく、つくっているのは全員地元のお母さんたち）を併設するほか、村と周辺地域でつくられた和洋スイーツを中心にしたお土産品。村の特産物である花豆や新鮮な農産物を販売することにより、さらに集客につなげています。
- ・宿泊施設である「なごみの里」、体験施設として可能性がある「種徳館」とも連動させた活用方法を考え、集客につなげることが必要です。

### 【水掛け菜】

1月10日の水掛け菜サミット前後には、多くの方から問い合わせがあり、「どこに行けば買えるのか」「食べられるレストランなどはあるか」といった質問をいただきました。

御殿場ではJA御殿場が栽培指導から広報・販促まで幅広い支援を行ない、水掛け菜漬けを一大産業として確立させています。

都留市でも御殿場に習い、生産者のバックアップ、新規生産者の育成などに力を入れることで、新しい農産物直売所でも目玉商品として力を発揮するものと期待できます。

また当日販売した、水掛け菜を使ったうどんやカップケーキなども大変好評で、都留の特産品として農産物直売所に置く商品になると考えます。

### 【わさび】

夏狩にあるわさびの菊地農園は三代続くわさび農家です。

約100年の歴史があり、無農薬で作られるわさびは、県外からのファンも多いそうです。

ほかにもこのような特産物は都留にたくさん眠っています。それを掘り起し、内外に伝えるためには個人の力だけでは限界があります。都留の特産物として自治体が積極的にサポートし、情報をアピールしていく必要があると考えます。

### 【第700回 十三の市】(都留の歴史など)

谷村の大火を経験しながら、奇跡的に燃えずに残った儀秀稲荷。

これは究極のパワースポットではないかと、今回のワークショップで盛り上がりました。

また次回の十三の市は第700回を数えるそうです。

こういう歴史などは、地元の間にはあたりまえのことでも、まわりから見ると価値があるという眠れる資産になっています。

この眠れる資源を活用するためには、私たち市民が外部からの視点も得ながら、都留には「宝」がたくさんあることを自覚し、発掘し磨いていくことが必要です。

そして、これらの歴史や物語を、都留の特産として新製品の開発に活かすことができれば、道の駅の棚も都留のもので埋まると考えます。

これらは、歴史や物語を知る住民自ら工夫し作り上げる必要があります、そのためには行政側からも丁寧なサポートが必要となります。

**●発信の大切さ**

今回開催した「まちづくりワークショップ」では、大学生がこのワークショップの情報を事前に SNS で発信しました。その情報をキャッチした甲州市の職員が興味を持ち、ワークショップに参加することになりました。

ここからわかることは、「多岐にわたる方法での、情報発信の重要性」であり、情報を発信すれば必ずそれをキャッチする人が出てくるということです。

**【都留市民に向けた情報発信】**

市民の中には、広報も読まない、新聞もテレビもあまり見ないという方も多数いらっしゃいます。このため、市の発している情報がなかなか伝わりにくいというのが現状です。さまざまな情報が飛び交う中、携帯電話やインターネットを使わない人は、「情報入手弱者」に陥っています。デジタルの発信だけでなく、手書きでの温泉便り・商店街便りなどの運用及び活用方法を模索することも、多様な情報発信につながります。

情報は単に発信しているだけでは伝わりません。届けたい相手に届けたい情報をきちんと届けるために、職員一人ひとりが情報発信基地となるという意識を持つことも必要であり、情報が伝わりにくい人達に、いかに情報を伝えるかを考え工夫し行動することが大きな課題と考えます。

大学生に向けての発信は、SNS が有効との意見が、大学生から多数あがりました。また、大学の構内の通路など、普段から目につきやすい場所への掲示板の設置、まちづくり支援センターへの掲示板の設置なども、大学生にとっては情報をキャッチしやすいとの意見もありました。大学と市民の相互で、まちづくりのための情報交換ができるよう、システムを作ることが必要と考えます。

発信する情報の内容に合った発信方法を選ぶこと、そして発信方法の多様化が求められます。

### 【都留市外に向けての情報発信】

なぜ外に向けての情報発信が重要なのか？

それは「選ばれるため」であり「都留を選んでもらうため」です。

観光地としての都留、学ぶための都留、移住するための都留。

情報を出していること自体が差別化になり、選ばれる理由になります。情報発信していないと存在していことになり、選ばれません。土俵にすら上がれず負けということになります。

「一番よさそう」「おいしそう」「楽しそう」「近そう」

この「〇〇そう」をうまく伝えることに、人が集まるヒントがあります。消費者が何かを利用する、また買おうとする動機のひとつに、「信頼できそう」というキーワードがあります。

この「信頼できそう」という感情をおこす具体的な方法として、HP、ブログ、Facebookなどに、

「1.担当者が顔を出すこと」

「2.口コミや第三者の声を載せること」

「3.知識や情報をできる限り詳しく載せること」などがあります。

都留を選び利用されるかどうかはこの「信頼できそう」というキーワードにかかっています。

都留からの情報発信は、各部署、各施設などが積極的にSNSなどを使い、多方面、多角的にイベントや都留の物語、施設の意味などの発信し、まず知ってもらうことが必要です。そしてそれを見た人に来てもらうことが、都留の活性化のためには不可欠と考えます。

また、「情報入手弱者」である世代は、あらゆる面で余裕のある世代でもあります。デジタルの発信だけでなく、手書きでの温泉便り・商店街便りなどの運用及び活用方法を模索することも、多様な世代に都留に来てもらうことにつながります。

### ～都留の活性化に向けて～

私たち市民が、都留に今ある人材、施設、歴史などを、「都留の大切な宝」と強く自覚し、外部からの視点も得ながら、発掘し磨いていくことです。

そのためには、市民と職員がパートナーシップを組み、そして市民一人ひとりが都留の情報発信基地という意識を持ち、都留の良いところを内外に積極的に発信できるよう、イノベーション（意識改革）をおこすことが大切です。

以上

# 活動報告書

平成 26 年度

都留の活性化を考える女性の会

# 目次

---

◇はじめに

◇目的

◇草の根イノベーション

◇都留のまちづくりに向けての目標

◇方法

◇活動報告書

- ・まちづくりプチふれあい集会 9月10日
- ・まちづくりのためのブランディング講演会 12月6日
- ・三町商店街百縁市 12月13日
- ・水掛け菜サミット 1月10日
- ・片品村花咲の湯視察 1月16日
- ・三町商店街のこれからを考えるワークショップ 2月7日
- ・わさびイナリシンポジウム 2月22日
- ・アロマテラピー（芳香療法）講習会 2月27日

◇おわりに

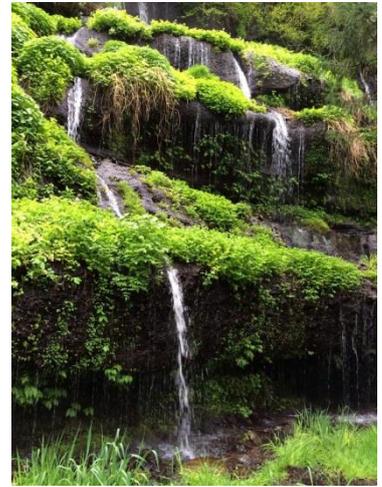
## ◇はじめに

---

都留には、人、水、風景、農産物、文化歴史など魅力ある資源がたくさんあります。これらの資源は、私たちにとっては日常の風景の一つでありながら、外からは立派な観光資源に見えることが少なくありません。

この眠れる資源を観光として活かすためには、私たち市民が、外部からの視点も得ながら、都留には「宝」がたくさんあることを自覚し、発掘し磨いていく必要があります。

また一時的なブームで終わらせることなく、地域の人々が知恵を出し合いながら、まち全体を盛り上げていくためには、何もかも行政頼みではなく、市民自らが観光資源を発掘研磨し、おもてなしの観光づくりに取り組んでいくことや、女性の視点から都留の魅力を発信していくことも重要だと考えます。



まちづくりや地域が活性化するためのポイントは、「場作り」「人作り」そして「継続」。



人材も大切な地域資源であり、世代を超えて地域に根ざした活動に取り組むために、魅力ある人（キーパーソンやコーディネーター、ファシリテーター）を発掘し、人材の育成・支援に努めます。

これらを次世代につなぐための継続的な活動にするためには、義務感だけでなく、活動する私たちが楽しみながらまちづくりに寄与することが、新しい文化を創り育てていくことにつながると考え、「都留の活性化を考える女性の会」を立ち上げました。

## ◇目的

---

都留の活性化を考える女性の会は、将来に夢を持てる魅力的な都留を作るため、また都留の自然・美しい森を次の世代に受け継ぐために、草の根イノベーションを起こします。

## ◇草の根イノベーション

---

「草の根のイノベーション」とは、生活者である私たち女性が生み出す、都留が良くなるための「都留のまちづくり」です。

イノベーションとは新しいアイデアから社会的意義のある新たな価値を創造し、社会的に大きな変化をもたらす自発的な人・組織・社会の幅広い変革を意味する。つまり、それまでのモノ・仕組みなどに対して全く新しい技術や考え方を取り入れて新たな価値を生み出して社会的に大きな変化を起こすことを指す。

(Wikipedia より抜粋)

## ◇「都留のまちづくり」に向けての目標

---

- ・「都留が良くなること」を共通認識とし、市民と市職員がパートナーシップを結び一丸となって都留のまちづくりに取り組むこと。
- ・地域資源として、女性や大学生などの人材に注目し、育成支援に努めること。
- ・都留の魅力ある資源を「地域の宝」として発掘し、磨いていくこと。
- ・都留の人材・情報・施設・専門家を活用する仕組みをつくること。

## ◇方法

---

### 3つの分科会に分け、活動しました

分科会	重点課題	活動
農産物直売所	農産物直売所のオープンに向け、観光資源を商品開発等に活かせるよう、女性の視点、消費者の声で提言する	<ul style="list-style-type: none"><li>・水掛け菜サミット</li><li>・わさびイナリシンポジウム</li></ul>
三町商店街	地元市民、フリンジマーケット、大学生、商工会を交えた、三町商店街の活性化への模索	<ul style="list-style-type: none"><li>・まちづくりプチシンポジウム</li><li>・まちづくりのためのブランディング</li><li>・三町商店街百縁市</li><li>・三町商店街のこれからを考えるワークショップ</li></ul>
芭蕉 月待ちの湯	芭蕉月待ちの湯、和みの里和風コテージの新たな活用に向けての提言	<ul style="list-style-type: none"><li>・片品村花咲の湯視察</li><li>・アロマテラピー（芳香療法）講習会</li></ul>

## ◇活動報告書

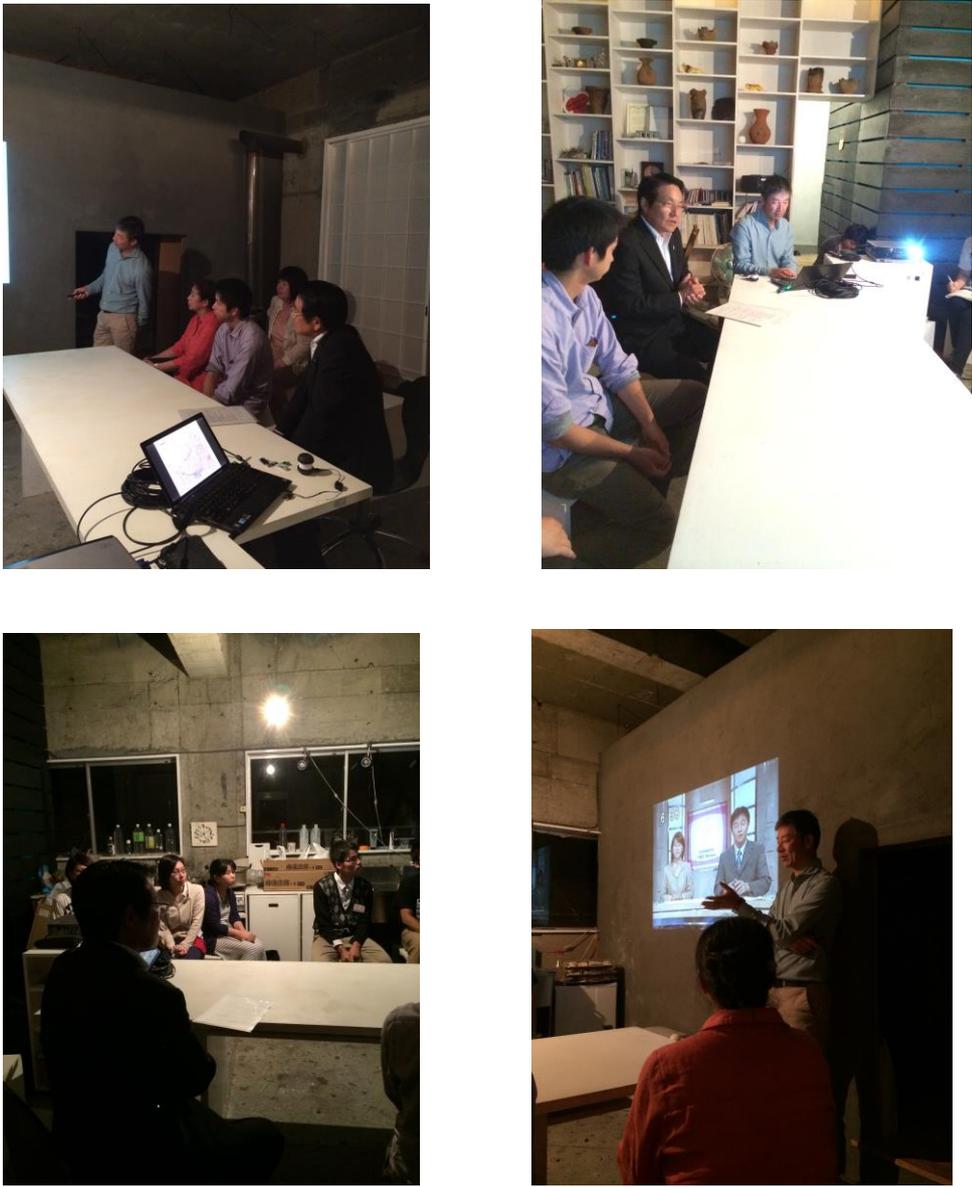
### まちづくりプチふれあい集会 活動（成果）報告書

平成 27 年 3 月 10 日作成

作成者：柳場みどり

団体名	都留の活性化を考える女性の会
代表	吉野かおる
テーマ	<input type="checkbox"/> 農産物直売所のオープンに向け、女性の視点からの商品開発等 <input checked="" type="checkbox"/> 三町商店街の活性化への模索 <input type="checkbox"/> 芭蕉月待ちの湯、和みの里の新たな活用の模索

日 時	平成 26 年 9 月 10 日（水） 19 時 00 分～	参加人数	20 名
場 所	都留市上谷 3 丁目 つる小屋		
テーマ	市長を囲んでの「まちづくりプチふれあい集会」		
講 師	甲斐徹郎氏 建築・まちづくりプロデューサー、株式会社チームネット代表取締役 都留文科大学文学部社会学科 非常勤講師		
目 的	<ul style="list-style-type: none"><li>・市長と大学生のふれあい集会を開催する。</li><li>・都留文大非常勤講師 甲斐先生の講義を、一般の人に聞いてもらう。</li></ul>		
内 容	<ul style="list-style-type: none"><li>・都留文大非常勤講師、甲斐徹郎先生による「美しい街並みについて」の講義</li><li>・都留の活性化を考える女性の会の活動内容の発表</li><li>・堀内市長より、施策のコンセプト・市政の展望を公表</li><li>・大学生などからの質問</li><li>・座談</li></ul>		

<p>参加者</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都留市長</li> <li>・都留文大生</li> <li>・NPO 関係者</li> <li>・地域おこし協力隊員</li> <li>・都留市職員</li> <li>・主婦</li> </ul>
<p>画像</p>	
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段、あまり接点のない市長と大学生がひざを突き合わせて話をする事ができた。</li> <li>・市長のコンセプトを大学生に伝える事ができた。</li> <li>・いろいろな立場の人が集い、意見交換や交流ができた。</li> <li>・大学生の活動「つる小屋」を知ってもらう事ができた。</li> <li>・都留の活性化を考える女性の会の活動を知ってもらう事ができた。</li> </ul>

# ◇活動報告書

## まちづくりのためのブランディング講演会 活動（成果）報告書

平成 27 年 3 月 10 日作成

作成者：柳場みどり

団体名	都留の活性化を考える女性の会
代表	吉野かおる
テーマ	<input type="checkbox"/> 農産物直売所のオープンに向け、女性の視点からの商品開発等 <input checked="" type="checkbox"/> 三町商店街の活性化への模索 <input type="checkbox"/> 芭蕉月待ちの湯、和みの里の新たな活用の模索

日時	平成 26 年 12 月 6 日（土） 14 時 00 分～	参加人数	40 名
場所	都留市中央 3 丁目 8-1 都留市まちづくり支援センター4 階大ホール		
テーマ	関橋英作氏講演会「まちづくりのためのブランディング」		
講師	関橋英作氏 クリエイティブコンサルタント、株式会社 MUSB 代表取締役 東北芸術工科大学企画構想学科教授		
チラシ			
目的 内容	<p>目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方のまちが、まちづくりをするときに必要なブランディングとは何か</li> <li>・まちづくりをする人たちの共通認識をつくる</li> </ul> <p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりのためのブランディングとは</li> <li>・ブランドって何？</li> <li>・ブランドによる差別化の必要性</li> <li>・ポジショニングを考える</li> <li>・チームビルディングの重要性</li> <li>・都留というまちのブランド化</li> <li>・時代はモノから場へ</li> </ul>		

画像等



質疑応答

参加者の声

質疑応答

- ・まちづくりには自治体との連携が重要だが、市民と自治体の関係は？  
→パートナーシップを組むことが大切。市民も職員も意識改革が必要。
- ・都留には素晴らしい「水」という資源がある。  
→日本中、自然と野菜と水は素晴らしいところがたくさんある。もう一つ、売りにするものがないと差別化は難しい。

参加者の声

- ・自分の仕事にいかせるものを聞いた。ありがたい。
- ・「自分のブランド」を起ち上げることの大切さを聞いた。

成果

- ・小さいまちや商店にこそ、ブランディングが必要という認識がもてた。
- ・市民と職員が同席する場で、パートナーシップの大切さという共通認識ができた。
- ・高尾町神社のお祭りとおしゃべりしたが、40人という市民が集まった。
- ・外から見る都留のまちのことが聞いた。
- ・「まちづくり」というキーワードで、市民、職員、大学生が集まることがわかった

## ◇活動報告書

### 三町商店街十三市、百縁市参加 活動（成果）報告書

平成 27 年 3 月 10 日作成

作成者：柳場みどり

団体名	都留の活性化を考える女性の会
代表	吉野かおる
テーマ	<input type="checkbox"/> 農産物直売所のオープンに向け、女性の視点からの商品開発等 <input checked="" type="checkbox"/> 三町商店街の活性化への模索 <input type="checkbox"/> 芭蕉月待ちの湯、和みの里の新たな活用の模索

日 時	平成 26 年 12 月 13 日（金） 10 時 00 分～	参加人数	
場 所	都留市中央 三町亭前		
テーマ	十三の市、三町百縁笑店街のイベントに参加（主催：三町商店街）		
目 的 内 容	目的 ・大学生が企画発案の「三町百縁笑店街」と三町商店街の十三市がコラボ企画したイベントに参加し、商店街の現在の状況を知ること。 ・大学生のイベントを盛り上げること  内容 ・三町百縁笑店街に出店参加		
成 果	・商店街と大学生の関係の再発見ができた。 ・商店街の金巻さんとのつながりができた。 ・三町商店街の現状を知ることができた。		



# ◇活動報告書

## 第1回水掛け菜サミットイベント参加 活動（成果）報告書

平成 27 年 3 月 10 日作成

作成者：柳場みどり

団体名	都留の活性化を考える女性の会
代表	吉野かおる
テーマ	<input checked="" type="checkbox"/> 農産物直売所のオープンに向け、女性の視点からの商品開発等 <input type="checkbox"/> 三町商店街の活性化への模索 <input type="checkbox"/> 芭蕉月待ちの湯、和みの里の新たな活用の模索

日時	平成 27 年 1 月 10 日（土） 13 時 00 分～	参加人数	100 名
場所	都留市中央 3 丁目 ぴゅあ富士		
テーマ	都留・水掛け菜サミット 第 1 回 （主催：水みず探検隊）		
講師	江頭宏昌氏 山形大学農学部准教授 山根成人氏 元ひょうごの在来種保存会代表		
チラシ ポスター			

<p>目 的</p> <p>内 容</p>	<p>目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水掛け菜の魅力の再発見。</li> <li>・生産者の声をきくこと。</li> <li>・それをベースに地域や水ついて、考えてみること。</li> </ul> <p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産地（都留、富士吉田、御殿場）の現状</li> <li>・種を守る人々</li> <li>・在来作物の価値と魅力</li> <li>・車座談義</li> <li>・水掛け菜を使ったお昼ご飯の提供</li> <li>・水掛け菜を使ったスイーツの販売</li> </ul>
<p>画 像</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>昼食提供の準備</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>水掛け菜入りカップケーキ</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>
<p>成 果</p> <p>及 び</p> <p>ま と め</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各産地の生産者が一同に集まり、意見交換ができた。</li> <li>・水掛け菜は各産地でも違いがあり、販売したものはすぐに売り切れた。</li> <li>・買いたいけどどこに売っているかわからないという声を、何人もきいたので、農産物直売所で積極的に販売すれば冬の目玉商品となると感じた。</li> <li>・水掛け菜入りうどんは好評だった。</li> <li>・水掛け菜入りカップケーキは、販売開始 10 分で売り切れた。農産物直売所での販売も視野に入れられる。</li> </ul>

## ◇活動報告書

### 片品村 花咲の湯視察 活動（成果）報告書

平成 27 年 3 月 10 日作成

作成者：柳場みどり

団体名	都留の活性化を考える女性の会
代表	吉野かおる
テーマ	<input type="checkbox"/> 農産物直売所のオープンに向け、女性の視点からの商品開発等 <input type="checkbox"/> 三町商店街の活性化への模索 <input checked="" type="checkbox"/> 芭蕉月待ちの湯、和みの里の新たな活用の模索

日時	平成 27 年 1 月 16 日（金） 13 時 00 分～	参加人数	2 名
場所	群馬県利根郡片品村花咲 1 1 1 3 花咲の湯		
テーマ	温泉施設、売店、レストランの視察		
講師			
目的 内容	目的 ・集客等に成功している山間部の温泉施設を視察し、問題点や成功点等を比較検討し、成功事例に学ぶ。 ・おもてなしの心を学ぶ。 内容 ・レストラン、売店、施設の視察		
成果	・経営方針の徹底、従業員がおもてなし心を持つことの大切さを理解した。 ・施設内のそうじを徹底することも集客につながることを理解した。 ・一人一人が持ち場を超えて、一生懸命接客することの大切さ。 ・「もてなす」という意識を一人一人持つことの大切さを理解した。 ・地元の特産物を 6 次産業化しているものの多さ。		

画像



## ◇活動報告書

# 三町商店街のこれからを考えるワークショップ 活動（成果）報告書

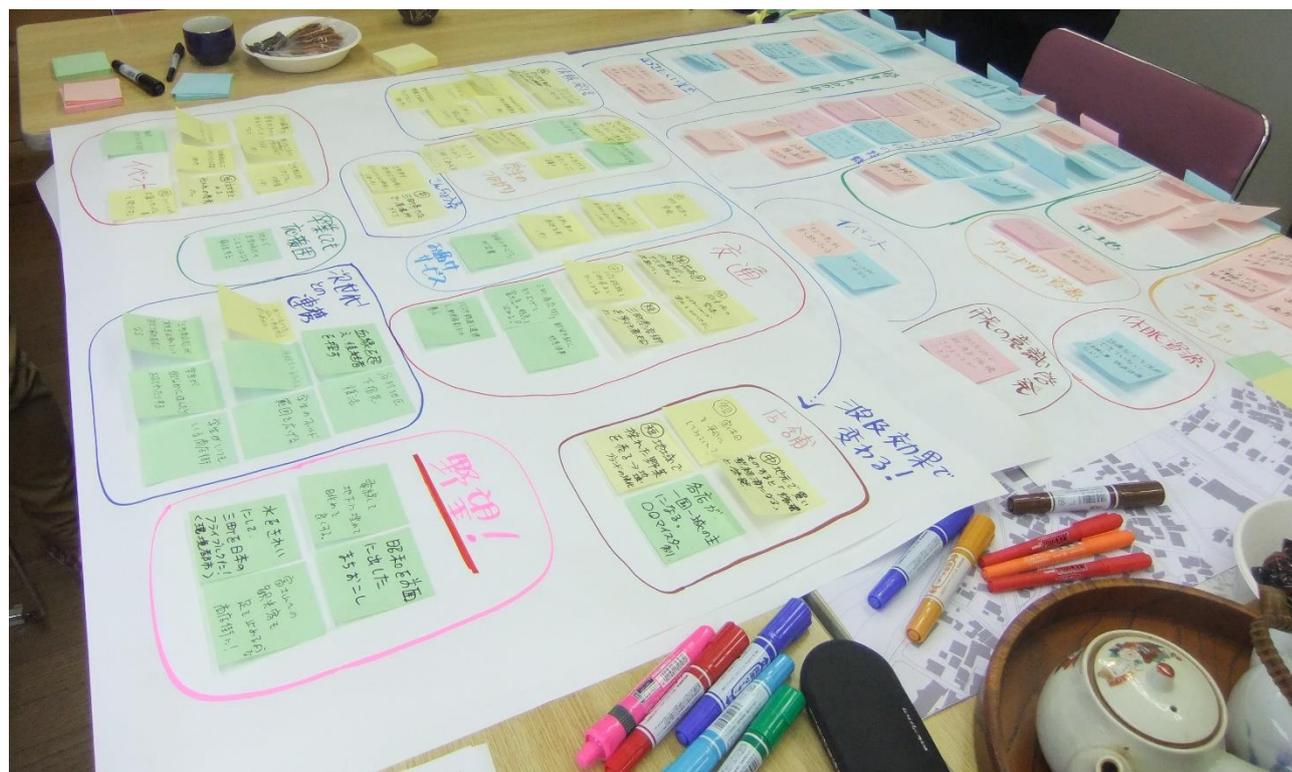
平成 27 年 3 月 10 日作成

作成者：柳場みどり

団体名	都留の活性化を考える女性の会
代表	吉野かおる
テーマ	<input type="checkbox"/> 農産物直売所のオープンに向け、女性の視点からの商品開発等 <input checked="" type="checkbox"/> 三町商店街の活性化への模索 <input type="checkbox"/> 芭蕉月待ちの湯、和みの里の新たな活用の模索

日時	平成 27 年 2 月 7 日（土） 13 時 00 分～	参加人数	15 名
場所	都留市中央 1 丁目 7 三町亭 2 階		
テーマ	三町商店街のこれからを考えるワークショップ		
講師	田中貴宏准教授 広島大学大学院工学研究科 建築学専攻		
チラシ			
目的	目的		
内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 普段感じている、三町商店街に対する思いをお互いに知ること。</li><li>・ それをベースに三町商店街のこれからについて、すこし考えてみること。</li></ul> 内容 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 三町商店街の昔と今</li><li>・ ワークショップ①「三町商店街の資源と課題」</li><li>・ ワークショップ②「三町商店街、こんなことできない？」</li></ul>		

## 「三町商店街のこれからを考えるワークショップ」



### ● ワークショップの目的

- ① 普段感じている、三町商店街に対する思いをお互いに知ること。
- ② それをベースに三町商店街のこれからについて、すこし考えてみること。

### ● ワークショップの流れ

<日時> 2015年2月7日(土) 13:00~16:00

<場所> 三町亭

- 主催者挨拶
- ワークショップの進め方の説明
- 自己紹介
- 「三町商店街の昔と今」
- ワークショップ①「三町商店街の資源と課題」
- ワークショップ②「三町商店街、こんなことできない？」
- 成果発表会
- まとめ
- 閉会



主催者あいさつ（柳場さん、吉野さん）



ワークショップの進め方の説明（田中先生）



「三町商店街の昔と今」（金巻さん）



グループワーク



グループワーク（Aグループ）



グループワーク（Bグループ）



成果発表（Aグループ）



成果発表（Bグループ）



	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 大型店にない人とのふれあい</li> <li>■ 人の良さ, 親切</li> <li>■ 個人商店ならではの仕入れ(品揃え)が良い</li> <li>■ 加工品も手作りなので安心, つくり手の顔が見える良さ</li> <li>■ 商店の人と会話をしながら良いものが買える</li> <li>■ お客様の顔が見える(おなじみさん)</li> <li>■ 生活に結び付いている日用品を扱う商店が多いので, なじみやすい</li> <li>■ 商いへのやる気を感じられない店もある (活気がない店は入りづらい)</li> <li>■ 個人商店だからできる「強み」を活かしていない店もある</li> </ul>
交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 歩くといろいろ見えてくるので, どこか目的の店に行く途中で足を止めてもらえれば…</li> <li>■ 狭い範囲であるので, お客が動きやすい</li> <li>■ 病院に来るついで</li> <li>■ 車だと通り過ぎてしまう, 止めやすい駐車場が必要</li> <li>■ 国道</li> <li>■ 車でスルー</li> <li>■ 駐車場のわかり易い表示が必要</li> <li>■ 歩道の整備がないので, 子ども・老人等には不安</li> <li>■ 駐車場不足</li> <li>■ 車がたくさん通り, 歩きにくい</li> </ul>
立地	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ いろいろな店がコンパクトにまとまっている</li> <li>■ 国道</li> <li>■ 駅から近い</li> <li>■ 自然に近い, 桂川, お寺, 裏山</li> <li>■ 銀行, 郵便局, 病院がエリアにある</li> <li>■ 業種が偏在している &lt;例&gt;かばん屋(バック)ベビー子ども用品</li> <li>■ 富士急線の利用者が減少→商店街に来る人が減る</li> </ul>
さんちょう & 十三 ブランド	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ “三町”というブランド力</li> <li>■ 三町亭がある</li> <li>■ 三町亭が気軽に使いやすい</li> <li>■ “きつね”, “お稲荷さん”というシンボルがある</li> <li>■ 十三 キャラクターが目立って良い</li> <li>■ 大火から復興したという物語がある</li> <li>■ 西涼寺! &amp; 偽秀稲荷</li> </ul>
ブランド的資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 昭和レトロな街♪</li> <li>■ 昔ながらの街並み</li> </ul>
休眠資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 設備などを活用できていない(手押し車, 放送設備など)</li> </ul>
市民の意識啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域内で経済を循環させることができる</li> </ul>

イベント	■ 「十三の市」が長く続いている
	■ イベントが少ない

<ワークショップ②「三町商店街、こんなことできない？」>

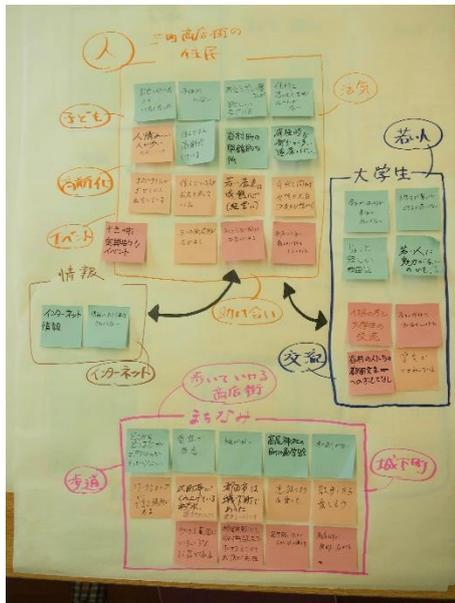
■…「すぐにできること（短期）」、「2～3年後にできること（中期）」

■…「10年後にできること（長期）」

分類	■ コメント
情報発信  波及効果で変わる！ ↓↓↓	■ 文大生が取材した店の情報を Facebook で発信
	■ 自分のしていることの記録と発信
	■ ネットを使った宣伝をする
	■ Facebook やブログで三町の情報発信
	■ 三町商店街のイメージアップの宣伝をする
	■ 学生がお店の情報を取材してマップづくり
	■ 三町の宣伝活動（SNS）
店舗	■ 定休日を平日にしてみても
	■ 地元で買い物すると循環型経済になると啓発
	■ 地域で取れた野菜を売る，地域ブランドの強化
	■ 各店が一国一城の主になる，〇〇マイスター制
学生のつながり	■ 桂川祭の仕入れを三町で行う，サークル×商店，つながりを密に
	■ 活動する学生の「タテのつながり」をつくる
	■ 下の世代を巻き込んだ活動
	■ 友達を連れて三町で遊ぶ（ロコミ！）
	■ 三町で活動する学生がいる
	■ 学生主体のイベントが定着
三町亭	■ 三町亭を地域交流の場に（ミニイベントの開催）
	■ 三町亭カフェで居場所づくり
お届けサービス	■ 共同配送の実現
	■ 「お届けサービス」について検討し，実現に結び付ける
	■ 手押し車の有効活用
交通	■ 「お届けサービス」が定着
	■ 共有の駐車場の創設，十三吉キャラをお面に。
	■ 駐車場の整備，難しければ案内を分かりやすく
	■ 三町商店街を歩行者天国に！
	■ バス路線を三町亭までひっぱる
	■ 三町商店街を盛り上げて，富士急の特急を止める！
	■ 都留市駅に特急停車
■ バスや鉄道と連携し，利用者割引の導入	
イベント	■ 100 縁等の学生も楽しめるイベントづくり
	■ 新入生に向けて（社学以外も含む）三町のまち歩きを企画

	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「三町商店街シンポジウム」の開催</li> <li>■ イベントを多く開催し、イメージをアピールする</li> <li>■ 100 縁商店街をイベントとして定着</li> <li>■ 文大生とWS，仕入れの参考に</li> <li>■ イベント時，大盛りサービス券を発行する</li> <li>■ 毎月イベントを行う</li> </ul>
卒業しても応援団	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地元で大学時代のことを話す，発信する</li> </ul>
次世代との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 閉じている店の大家に話をして，新規開店者を募集する</li> <li>■ 血縁を超え，後継者を探す</li> <li>■ 谷村地区下宿先復活</li> <li>■ 後継者を育成する</li> <li>■ 学生のフィールド範囲を広げる</li> <li>■ 「三町商店街」が文大生は知っていて当たり前の存在になる</li> <li>■ 学生が街中に住んだり，お店をやったりする</li> <li>■ 学生がいつもいる商店街</li> </ul>
野望！	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 電線を地下に埋めて眺めをよくする</li> <li>■ 昭和を前面に出したまちおこし</li> <li>■ 水をきれいにして，三町を日本のフライブルク&lt;環境都市&gt;に！</li> <li>■ 富士山への観光客も足を止めるような商店街に！</li> </ul>

● Bグループの成果



<ワークショップ①「三町商店街の資源と課題」>

- …三町商店街の資源（よいところ）
- …三町商店街の課題（悪いところ）

分類	■ コメント
三町商店街の住民	■ 人情があつい、人が多いと自負している
	■ ホスピタリティが昔から根付いている
	■ 困ったらすぐ聞けるお店がある
	■ お店に入ると親切に話を聞してくれる
	■ 3つの商店街がなかよし
	■ 年代を問わず女性が元気（元気な女性がいる）
	■ 若い店主は熱心（経営に）
	■ 住んでいる人がお店をやっている
	■ 十三の市、定期的なイベント
	■ おせっかいな人がいなくなった
	■ 消極的な人たちが多く、遠慮っぽい
	■ 谷村町の閉鎖的なところ
	■ 住もうと思ったときのルートがない
	■ 子どもがいない
	■ 住んでいる人、高齢化している
■ おそうざい屋さんがほしい、専門店	
大学生	■ 住民の方と大学生の交流
	■ 学生の活動に快く協力してくれる
	■ 谷村の人たちの都留文生へのおもてなし
	■ 学生が関わっている
	■ 大学生が買い物できるお店がない
	■ ちょっと寂しい雰囲気
	■ 学生がなかなか来ない、住んでない
	■ 若い人に魅力がないのかも、工夫したい
情報発信	■ インターネット情報
	■ 情報があまり発信されてこない
街並み・景観	■ どこからどこまでが三町なのかわからない
	■ 電線が残念
	■ 歩道が狭い
	■ 高尾神社の町の通学路
	■ 車の通りが多い
	■ ワークショップができる場所がある
	■ 三町亭がくみ上げている井戸水、薬効ありときく
	■ 都留市は城下町であった、羨ましいそうです
	■ 迷路のような楽しさ
	■ 散歩したら楽しそう
	■ 歩ける範囲にいろいろなお店がある ■ 都留市駅から谷村町駅まで歩けるところにお店が点在

	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 通学路になっていて、人が通る場所</li> <li>■ 商店街が面的に広がる</li> </ul>
--	--

<ワークショップ②「三町商店街、こんなことできない？」>

- …「すぐにできること（短期）」、「2～3年後にできること（中期）」
- …「10年後にできること（長期）」

分類	■ コメント
大学生と一緒に	■ 学生と一緒に街づくり株式会社
	■ 趣味で人々がつながる場
	■ 学園祭をコラボで
	■ 子どもを引きつける
	■ 学生のコミュニティビジネスを支援する
	■ 学生のショップ出店
	■ 大学生居住の呼び戻しをする
	■ ホストファミリー、大学生のための
子ども・遊び	■ 小学生と大学生のまちあそび
	■ 子どもたちが安心して遊べる場所
	■ 大人も子どもも楽しく立ち寄れる店が欲しい、もちろん大学生も！！
	■ 子どもが大勢いる街
交流	■ おもてなしの心を共有
	■ 世代間交流
	■ 大学生をもてなして社会人になってまた来てもらう
	■ コミュニティカフェ
	■ コミュニティスペース、たむろできる場がある
	■ 街のコミュニティFM
	■ ドリームショップとみながさん、町の駅
	■ 外国人のおもてなしをやるぞ！
	■ 大学生が帰ってくる場へ
■ カルチャーセンター生涯学習の場をつくる	
三町亭	■ 三町亭をもっと利用する
イベント	■ いいとこさがし
	■ フリーマーケット、住む人がかかわるイベント
	■ マルシェ、マーケットを通りでやりたい
	■ 自慢会をやる
	■ お店一軒一軒で自慢を作る 「これなら負けないよ！」「これはすごいんだ！」
	■ 三町商店グルメ作り
■ 高尾町など周辺との連携	

情報発信	■ 地元の文化発信の場を作る
	■ フェイスブック, ツイッター
	■ イベントの外部発信
	■ もっと都留市のことを外へ発信したい, その方法と内容
	■ 情報発信, ネット, 口コミ
	■ 掲示板 (SNS)
街並み	■ 新しい学校に来る人が来てよかったと喜びを感じる街
	■ 住民みんなで話す場づくり
	■ 安心して歩ける
	■ 電線なくす
	■ 歩行空間が広がる
	■ 電線と電柱をなくす (美化)
	■ 車を通さない歩く街
住まい	■ シェアハウスを増やす
	■ お店を分割して貸す
	■ 空き家利用ネットワーク
	■ 学生のシェアハウス不動産屋 (NPO) など
自然	■ 水を使った商店街づくり (街並み)
	■ 美しい緑やおいしい水をいつまでも大切に守れる町
仕組み・方法	■ セニアカーでチームをつくり, 街の見守り
	■ 休みの日 (定休) を変える
	■ 次のワークショップ

## ● 参加者アンケート

●楽しい時間を共有させていただき、ありがとうございました。地方都市が抱えている問題は共通したことも多いですが、その問題に取り組むのは、それぞれの地域がそれぞれに自分で、自分たちで取り組むことしか道はないということ、今日改めて感じました。ありがとうございました。

●三町商店街の良さや課題について、共有することができてよい機会となりました。

ワークショップでたくさんの意見が出たことで、三町商店街について地域の人々がどう考えているのか、これからどうして行くべきかと言うことが良くわかりました。

三町商店街は『シャッター通り化』が進行しておらず、固定客を中心にととても努力しているという特徴があり、学生も関わっていることから、明るい将来があると考えています。

しかし、情報発信がまだ不足していることや、学生への知名度が低いといった課題もあり、これから解決できると感じました。まずは情報発信を行って、多くの学生に商店街を知ってもらえるといいと考えています。今日は本当にありがとうございました。

●一人で考えるだけで形にならないものを合わせて、ひとつのきっかけとすることができる機会になりました。イベントのような大きな催しのみでなく、日常的に大学生とまちの人が交流できる場ができれば良いと、今日再度感じました。今回のような人が気軽に集まる場や機会が当たり前のようにあれば、もっと多くの意見や思いが出てくるんだろうなと思い、第2回、第3回に期待したいです。

今回集まったものをもとに、自分で、仲間、地域の方々と、少しずつ実現していきたいです。

●本当にいい時間を過ごすことができました。周りも私も次につながる時間だと思いました。

山形から山梨に繋がるだけでもすごいことだと思っておりましたが、それが今度は広島に繋がるというのに感動しました。大学の醍醐味はこういうところにあるのだと思いました。

また、広島のワークショップでも似た意見や結論がでたと聞いて、これは都留市に特別おこっているのではなく、日本全体の問題であると実感しました。同様に今行っている活動は、都留市だけでなく、地元山形やその他の地域でも活かせるものだろうと思いました。

今日はこのような時間を設けていただき、ありがとうございます。

●金巻さん、国井さん、富永さんという、三町商店街の方が来てくださって、お話がとても参考になりました。今日は学生から高齢者まで、幅広い層と男女双方が集まったので、とてもバランスの良い意見交換ができたと思いました。このくらいの規模がやりやすいのですか？もっと違う人にも参加してほしいと思います。柔軟な考え方の持ち主である商店主の皆さんとなら、一緒に活動していけるのではと、とても期待しています。この成果は、なるべく広く発信して、多くの人に知ってほしいですね。やはり早急に「さちゃん Facebook」を開設したいです。

●まったく三町商店街のことを知らずに参加しましたが、まちを盛り上げるにはどういうことが必要かわかり、良い勉強になりました。ありがとうございました。

## ◇活動報告書

### わさびイナリシンポジウム イベント開催 活動（成果）報告書

平成 27 年 3 月 10 日作成

作成者：柳場みどり

団体名	都留の活性化を考える女性の会
代表	吉野かおる
テーマ	<input checked="" type="checkbox"/> 農産物直売所のオープンに向け、女性の視点からの商品開発等 <input type="checkbox"/> 三町商店街の活性化への模索 <input type="checkbox"/> 芭蕉月待ちの湯、和みの里の新たな活用の模索

日時	平成 27 年 2 月 22 日（日） 10 時 00 分～	参加人数	15 名
場所	都留市中央 3 丁目 9-3 ぴゅあ富士調理実習室・小研修室		
テーマ	わさびイナリシンポジウム		
講師	玉川真奈美氏 食品企画会社(株)インフィニバリュー代表取締役 山梨県栄養士会地域活動部会中北支部長 6次産業化プランナー JC 総研食育ソムリエ		
チラシ			
目的 内容	<p>目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都留で栽培された「わさび」を使ったいなり寿司を作り、試食する。</li> <li>・自分で作った商品を直売所に置くためには、何をすればいいのかのプロセスを学ぶ。</li> </ul> <p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調理実習室にて、都留で栽培された「わさび」を使ったいなり寿司を作る。</li> <li>・いなり寿司の試食。</li> <li>・小研修室にて、玉川真奈美氏による食品衛生法などのレクチャー。</li> </ul>		

画像



成果

- ・都留で栽培されているわさびと、梅酢を使った揚げを使ったイナリ寿司を作った。
- ・自分の作っている農産物を製品にするためのプロセスを学んだ。
- ・生産者と消費者が顔を合わせて意見を交換することの大切さを学んだ。
- ・山梨日日新聞に掲載された



参加者の声

アンケート

- ・いろいろな材料が揃えてあり、油揚げもいろいろな煮方がある、大変勉強になりました。
- ・麴漬けのワサビは、とても意外性がある、勉強になりました。
- ・わさびを使った料理の機会があまりないので、参考になりました。
- ・いなりの料理法もいろいろあり、勉強になりました。
- ・おいなりさんを作る機会が増えそうです。
- ・地元の素材を使う大切さも良かったです。
- ・今日はとても楽しく、またなかなか学べないようなことを学べて、大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・地域の特産物である、水掛け菜、青畑大豆、ニンニクなどを使用した料理も参加したいです。
- ・準備など、大変お疲れ様でした。おいしく楽しく体験できて感謝です。
- ・道の駅等の物産販売は、加工施設などを通してあるか、グレーゾーンが大きいことを感じました。
- ・加工品や製造を検討中ですが、どういう申請の仕方をすれば良いか教えていただきありがとうございました。
- ・調理加工施設などを整備して、産業として取り組むか、手作り加工品のレベルに留まるか、その判断がぎりぎりのところだと思います。それによって先行投資の有無も決断しなくてはなりませんね。難しいところだと思いました。

## ◇活動報告書

### アロマテラピー（芳香療法）講習会 活動（成果）報告書

平成 27 年 3 月 6 日作成

作成者：柳場みどり

団体名	都留の活性化を考える女性の会
代表	吉野かおる
テーマ	<input type="checkbox"/> 農産物直売所のオープンに向け、女性の視点からの商品開発等 <input type="checkbox"/> 三町商店街の活性化への模索 <input checked="" type="checkbox"/> 芭蕉月待ちの湯、和みの里の新たな活用の模索

日 時	平成 27 年 2 月 27 日（金） 13 時 00 分～	参加人数	6 名
場 所	都留市戸沢 874-1 芭蕉月待ちの湯 和室		
テーマ	アロマテラピー（芳香療法）講習会		
講 師	関戸有美氏 有香房 代表 都留市在住、アロマ心理セラピスト		
目 的	目的		
内 容	<ul style="list-style-type: none"><li>・アロマテラピーの講習会を開催し、身体や健康について学ぶこと。</li><li>・芭蕉月待ちの湯の新たな活用法を模索するための女性の視点からの意見交換会。</li></ul> 内容 <ul style="list-style-type: none"><li>・アロマテラピー（芳香療法）による健康づくりへのアプローチ。</li><li>・ハーブティーの試飲。からだカレンダーの活用方法。</li><li>・筋肉弛緩法と部分浴の効能。</li><li>・ブレンドオイル作り。</li><li>・月待ちの湯の活用法を模索するための意見交換。</li></ul>		
成 果	<ul style="list-style-type: none"><li>・健康な心とからだづくりに向けて、嗅覚を鍛えることが大切なことを学んだ。</li><li>・健康なからだづくりに温泉の良さを取り入れることを学んだ。</li><li>・香りは認知症にも効果があることを学んだ。</li><li>・月待ちの湯に和室があることを知った。</li><li>・月待ちの湯の pH9.9 強アルカリの特徴ある効能を知った。</li><li>・女性と月待ちの湯の相性の良さを意見交換した。</li></ul>		

画像



参加者の 声	<p>・都留に在住して25年になる主婦です。都会に近く、とても住みやすい場所として自然も豊かな都留市に住めていることに喜びと楽しみを持っています。本日講習に参加できたことを光榮に思います。新しいものとの出会いを楽しみに、人と触れ合えるコミュニケーションの場として、楽しい時間を過ごすことができました。都留の活性化を考える女性の会の一員として、これからもよろしく願いいたします。香りを楽しむこともとてもよかったです。おいしいハーブティーをごちそうさまでした。</p> <p>・今日は大変有意義な時間をありがとうございました。</p> <p>関戸さんのアロマセラピーの講習をはじめ、都留市を活性化するために白熱した意見交換など、みなさんの熱意に感銘しました。若い人たちがどんどん都会に出ていってしまう今、ここに住んでいる自分ができることは何か、みなさんと一緒に考えていきたいと思います。</p> <p>都留に住んでいる女性の方は、いろいろな活動をしている方がたくさんいらっしゃると思うので、一部の方だけでなく、声をかけて、この女性の会を多くの市民に知っていただけるといいと思います。</p> <p>アロマセラピーは認知症の方にもとても良い作用があり、これからもボランティアとして老人施設を利用されている皆さんに役立てるよう、癒しをしていけたらと思っています。</p> <p>・講習会に参加して、都留市にはすばらしい資源がたくさんあることを改めて知ることができました。特に月待ちの湯は、温泉の効用や自然や空気や水も魅力的で、もっと市民に知ってもらって足を運んでもらえたらいいと思いました。</p> <p>私は高齢者の健康を支援することに携わっていますが、高齢の方で一人暮らしの方や認知症の方などに、楽しみや出会いを持ってもらい、自分の身体を大切にしてもらいたいと思いました。そのためには、外に出て多くの方と触れ合い、都留市に住んでいてよかったな、これからもずっと居たいなと思ってもらえるように働きかけることが大切だと思いました。</p> <p>男性だけでなく、料理や子育てで女性の力は不可欠のため、女性の力を発揮して、都留市を活性化していきたいと思いました。</p>
-----------	--

以上

## ◇おわりに

「都留の活性化を考える女性の会」は市民委員会として申請したのが平成26年7月。認可が8月初旬、実質の活動は2月末までの約7か月間という短い期間の中で活動してまいりました。

その中で「まちづくりプチふれあい集会」「まちづくりのためのブランディング」「三町商店街百縁市」「水掛け菜サミット」「片品村花咲の湯視察」「三町商店街のこれからを考えるワークショップ」「わさびイナリシンポジウム」「アロマセラピー（芳香療法）講習会」という多岐にわたるイベントの開催、またイベントに参加ができましたことは、ひとえにご参加いただいた方々、お手伝いいただいた大学生を含む皆様のおかげと、心から感謝申し上げます。

また、多岐にわたる活動の中で、担当部署の政策形成課 中野リーダー、原田さんとも良いパートナーシップを構築でき、大変お世話になりました。

たくさんの方々に支えられ、おかげをもちまして市民委員会としての活動を無事終了することができました。ありがとうございます。

今回の活動を通じ、多くの方から共感とつながりをいただきました。そして「人材の掘り起しと育成」「今ある資産の活用」「パートナーシップ」「情報発信の重要性」など、都留のまちづくりのための重要なキーワードが見えたことが、大きな成果だと感じております。

都留の女性が生み出す「草の根イノベーション」が広く認知され、さまざまな人間がお互いに対等な立場で参加し、市民一人ひとりの思いが「ひとつの輪」として、そしてそれがさらに大きな輪となるよう、今後も活動を継続させていきたいと思っております。

平成27年3月

都留の活性化を考える女性の会  
代表 吉野かおる